

11/23(水・祝)まで開催中
テーマ展
「石狩紅葉山49号遺跡の舟と櫂」

場所 いしかり砂丘の風資料館
(9時30分～17時／火曜休館)
費用 入館料300円(中学生以下無料)



写真1 丸木舟の一部

もので、舟面を丹念に仕上げています(写真1)。櫂は、ほぼ完全な形で出土したものが1点で、全長が約160cmあります(写真2)。このほかに、櫂の水掻部と柄の二部が残ったもの、柄が欠損して水掻部のみが残ったものなども出土しています(写真3)。これらの櫂に用いられた木の種類を調べると、モクレン科モクレン属が半数以上で、櫂に合った種類の木を選んで作られていたことが考えられます。さらに、49号遺跡の櫂はいず

いしかり
博物誌
146

縄文文化の舟と櫂

人やモノを乗せて水面を浮かぶ「丸木舟」、それを人力で動かす「櫂」。交通・運搬・漁の作業など、日本列島では縄文時代から海・川・湖などで使われてきました。これまで日本各地で出土した縄文時代の丸木舟の数は120艘を超え、櫂も数多く出土していることから、当時の人々の活動を支えてきたことが分かります。

石狩市内では、石狩紅葉山49号遺跡(以下49号遺跡)で丸木舟の一部と櫂が出土しています。約4千年前の川の跡から、土器・石器・木製品などとともに見つかりました。北海道内の遺跡で縄文時代の丸木舟と櫂が出土したのは、今のところ49号遺跡しか知られていません。当時、この地域の人々が川をどのように利用していたのかを明らかにしていくうえで貴重なものです。



写真2 ほぼ完全な形で出土した櫂
(市指定文化財)



写真3
櫂の水掻部

れも水掻部の幅が10cm未満で細身に作られているのが特徴です。このような形状から、水面を大きく掻きこぐためのものではなく、川底を突き押すように用いたものではないかと考えられます。

縄文時代の丸木舟と櫂は、漁労活動はもちろん、交通や運搬を拡大させる手段として、川や海と向き合った当時の人々の知恵と工夫が詰まったものといえます。

(荒山千恵)



石狩市学芸員
荒山千恵 Chie Arayama

専門分野は考古学。北海道での遺跡発掘調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。

ERIS「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。